

2020年9月11日

国土交通大臣 赤羽 一嘉様

国土交通省九州地方整備局 局長 村山 一弥様

国土交通省九州地方整備局 八代河川国道事務所所長 服部 洋佑様

瀬戸石ダムを撤去する会

共同代表 出水晃、上村雄一、緒方俊一郎、本田進

連絡先:〒869-0222 熊本県玉名市岱明町野口 927

TEL:080-3999-9928 FAX:020-4668-3744

瀬戸石ダム撤去を求める申し入れ書

2020年7月3日から4日にかけて県南地域を襲った豪雨により、球磨川流域では大水害が発生し、瀬戸石ダム湖周辺の芦北町吉尾・簸瀬・白石地区、そして瀬戸石ダム自体にも、かつてない甚大な被害が発生しました。

吉尾地区は、球磨川との合流部（和田口）に近い高野旅館などのかさ上げ後の住宅が1階まで浸水しています。少し上流の吉尾温泉診療所や湧泉閣も浸水しています。かつてない程の大量の球磨川のバックウォーターと吉尾川自体の氾濫で、被害の拡大につながりました。

簸瀬地区は、球磨川に沿って走る県道球磨田浦線沿いの住宅数軒と JR 肥薩線のガードをくぐり、数メートル上がったところの住宅街の2つに分かれています。県道球磨田浦線沿いのかさ上げ後の住宅は1階の上の部分まで、浸かっています。ガードをくぐって数メートル上がったところの住宅街にも水は押し寄せました。こういう水害はかつてなかったと住民も言います。

簸瀬地区よりさらに上流の白石地区では、かさ上げ工事が完了した住宅街が床上浸水しています。

吉尾・簸瀬地区から、瀬戸石ダム方面に向かいますと、いたるところで町道や肥薩線の線路の路盤自体が流失・陥没していました。単に増水・冠水したということでは説明できない現象が起っています。

瀬戸石ダムでは、連絡橋の2メートルくらい上のゲートの箇所まで流木などが引っ掛かっていました。一番水位が高かった時には、ゲート自体が障害となって水の流れを阻害していたこととなります。もちろん連絡橋やゲート間のコンクリートの構造物（門柱）も全て、川の流れを阻害していたこととなります。住民の証言によれば、ダムの上流側と下流側で水位が同じ高さだったそうです。とてつもない量の水が押し寄せ、ダムにせき止められ、その一部が下流に流れていったこととなります。

瀬戸石ダムを管理運営する電源開発株式会社（以下電源開発）によると、3日午前5時から、通常の発電運用における低水位より3メートル低い水位を維持しましたが、4日午前2時過ぎには洪水量（ダム下流の地域、河川内の各種施設に大きな被害を及ぼさない流量：瀬戸石ダムは毎秒2,000トン）を超過し、その後過去に経験したことのない急激な流入量の増加となったとのこと。

午前3時から4時頃に、洪水吐ゲートの下端が水面より離れ、流入水がそのまま流下する自然河川に近い状態へ移行し、その後も洪水吐ゲートの開操作を継続し、午前7時までに洪水吐ゲートを全開（フルオープン）し、流入水がそのまま流下する自然河川に近い状態で操作を終了したそうです。

上記のダム運用により、ゲートが開放されたことで、瀬戸石ダム下流はダム湖からの放流で急激な水位上昇が起こったことは疑いようがありません。

また、ダムより上流部分では、過去になかった水量により、ダムにせき止められた水でダム湖の水位上昇が起き、バックウォーターの範囲が広まりました。このように、瀬戸石ダムの存在そのものが「洪水吐ゲート全開」によっても、下流域には急激な水位上昇による甚大な被害を、上流域には洪水の流下を妨げ水位上昇による甚大な被害をもたらす水害拡大要因となっていることは明らかです。

また、瀬戸石ダムの問題点として以前から指摘されていたダム湖の土砂堆積が更に水位を高くしていました。これらが積み重なって、ダム湖周辺地域やダムの下流域に未曾有の被害をもたらしました。

電源開発は瀬戸石ダム湖の土砂撤去工事を2003年から行っています。しかし、堆砂量は2003年度の60万立方メートルから2019年度の85万5千立方メートルと減るどころか、逆に増えています。電源開発は1981年当時の河床を目標とした土砂撤去工事を行っていると言いますが、目標に近づくどころか堆砂量は減少傾向を示していません。

このことは、この土砂撤去工事が貴省の定期検査による指摘を受けたことに対する見せかけの対策であり、全く実効性を伴っていないことを示しています。洪水を防ぐ効果は全くなかったと言わざるを得ません。

ちなみに、私たちが2019年に発見した故麦島勝氏撮影の写真（別紙資料参照）から、2016年12月18日時点までの電源開発による土砂撤去作業によっても、瀬戸石ダム建設以前に比べ堆積土砂により5メートル、河床が上昇していたと推定されます。「1981年当時の河床を目標とする」とされ続けられている根拠も不明といわざるを得ません。

問題なのは電源開発だけでなく、このような電源開発のあり方を放置してきた貴省もです。貴省は、ダム湖の堆砂によって洪水発生のおそれがあると指摘しながら、電源開発がおぼろげな対応しかしてこなかったことを知りつつ、それを黙認・放置してきたからです。

私たちは、巨大な構造物が河川の中にある危険性をこれまで指摘してきましたが、残念ながらそういうダムの危険性が今回の水害で現実のものとなりました。もはや、瀬戸石ダムの再稼働を許すべきではありません。貴省には、危険な瀬戸石ダムを早急に撤去するよう電源開発を指導されますことを求めます。

以上